

令和6年度 学 校 評 価 【 報 告 書 】

加賀市加賀市立東谷口小学校

学校教育ビジョン

学校教育目標 「これからの時代を生き抜く、たくましい東谷口っ子の育成」
～子どもの「今」も「未来」も幸せに～

めざす学校像 「子どもが主役の“挑戦”と“思いやり”にあふれる学校」
・児童も教師も学ぶ楽しさ、喜びを感じる学校
・笑顔と思いやりの言葉であふれる学校
・保護者・地域から信頼される安心安全の学校

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	条件や内容に気をつけながら記述する	条件や内容を意識して文章が書けるよう、国語科を中心とする授業やパワーアップタイムで継続的に取り組む。	学力向上 (研・学)	授業や学力テストなどから、字数や資料の活用など、条件に合わせて記述することが苦手な児童が見られる。	【成果指標】 条件や内容に気をつけながら記述できた児童の割合が何％か。	児童の肯定的評価が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	児童アンケート (7・12月)	B	B	条件や内容に気をつけて記述できたと答えた児童の割合は、中間と変わらず81％であった。少しでも児童の記述する力の向上がはかれるよう、今後も国語科を中心に他教科でも意識して継続的に取り組んでいく必要がある。
	個の確かな力につながる活動場面の工夫	個の確かな力のために、児童が主体的に課題解決に向かい、子どもに委ねる場面がある授業づくりを共通実践する。	研究 (研・学)	児童が「何のために」「どのように」学習を進めるのかを主体的に考え、学びの変容を実感できるような活動場面の工夫が必要である。	【努力指標】 共通した取り組みを行い、児童の主体的な学びを意識して授業づくりを行っているか。	教員の肯定的評価が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	教員チェックシート (毎月)	B	A	職員研修で研究の取り組みについて、定期的に確認する場を設けたことで、共通取組について全員で確認し、次の授業づくりにつなげることができた。児童が自分の学びを意識するためにふりかえりにも重点を置いた取り組みを続けていく。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	共感的人間関係 児童同士の関わり合う力の向上	共感的人間関係を重点に生徒指導の4つの視点を意識した授業づくりを共通実践する。	生徒指導 (生徒指導)	明るく素直でまじめに取り組む子が多い。一方で、自分に自信が持てず受身な傾向がある。教師が子どもに対して、さらに子ども達同士で褒めたり認めたりする活動を意図的・意識的に授業や行事等で組み込む必要がある。	【努力指標】 生徒指導の4つの視点を意図的に授業や行事等で取り組むことができる。	教員の肯定的評価が A 90％以上 B 80％ C 70％以上 D 70％未満	教員チェックシート (隔月)	A	A	肯定的評価は92％だった。2学期は、教員のチェックシートを共感的人間関係の3つの項目に絞ったものに作り直したことでより重点を意識することができた。学活のなかよしトークを通して楽しみながら共感的な関わりを体験的に学ぶことができている様子が見られた。今後も誰もが安心して話し合いができる環境を作ること、共感的人間関係の育成につなげていきたい。
③キャリア教育・進路指導	学校生活の中で自分の役割や責任を果たす	係活動や清掃活動、委員会活動において自身の役割や責任を果たすことは学級、学校全体に役立っていることを自覚させる。学期初めの目標設定、学期末の振り返りやキャリアパスポート活用をする。	キャリア (研・学)	すべきことを真面目に取り組む児童が多いが、自分に自信がない児童も多い。係活動や清掃活動、委員会活動は、学級、学校全体に役立っているという認識が低い児童もいる。	【成果指標】 児童が、係活動や清掃活動、委員会活動において、役割や責任を果たし仕事をすることができたか。	児童の肯定的評価が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	児童アンケート (7・12月)	A	A	学校行事に関しては、全学年共通してキャリアパスポートを利用するものを3つ設定し、全校で意識できるようにして取り組んでいる。児童が責任をもって活動できるよう声かけなどの指導を続けていく。
④保健管理	正しい姿勢に対する意識の向上	健康委員会が中心となって、朝の会に姿勢体操や授業前の立腰タイムを実施し、児童の姿勢の保持に対する意識の向上を図る。	養教 (生徒指導)	姿勢の保持が難しく、授業に集中できていない児童がみられる。日常的に正しい姿勢を意識づけ、姿勢の改善に取り組む。	【成果指標】 正しい姿勢を意識することができた児童の割合が何％か	意識することができた児童の割合が A 90％ 以上 B 80％ C 70％以上 D 70％未満	児童アンケート (7・12月)	A	A	正しい姿勢を意識することができるようになった児童の割合が90％以上であった。学校保健委員会で講師からも正しい姿勢について学び、児童の意識は高まり正しい姿勢について習慣化されてきた。姿勢の保持が難しい児童もみられるため、個別指導を実施し、今後も姿勢体操や立腰の姿勢を継続し、さらなる習慣化に努めていく。
	1校1プランの推進による運動の習慣化と体力向上	体育の学習の最初に、立ち幅跳びチャレンジを問い入れる。休み時間も同様に立ち幅跳びチャレンジの場所を設定し、取り組めるようにする。	体育 (生徒指導)	児童は体を動かすことに対して前向きであり、外遊びにも積極的な児童が多い。しかし、体力テストの自校の平均値は、県の平均値を下回っている種目が多い。	【成果指標】 立ち幅跳びの記録を測り、前回の記録よりも跳んだ距離が更新することができる。	記録が向上した児童の割合が A 90％以上 B 80％ C 70％以上 D 70％未満	記録計測 (5・7・12月)	A	B	記録が向上した児童の割合が86％であった。職員研修で跳ぶときのパワーポジションなどを共有し、子供たちに意識をさせることができていたが、定着はしていない。今後も、効果的な取り組みを紹介し、指導を継続していく。
⑤安全管理	避難訓練の計画的な実施と児童職員の意識向上	火災・地震・不審者に対する避難訓練を通して児童の危機予測・危機回避能力の育成とともに職員の危機未然防止・対応能力の向上を図る。	教頭 (総)	避難訓練等を計画的に実施し、児童の危機への対応能力を高めているが、継続して実施し、自分で考えて行動する力を伸ばしていく必要がある。	【努力指標】 教員が訓練に際し、児童の安全への意識を確認したり高めたりするよう努めたか。	児童・教員の肯定的評価が A 95％以上 B 85％以上 C 75％以上 D 75％未満	児童・教員アンケート (訓練ごと)	A	A	避難訓練(火災、地震・津波・浸水、不審者)・児童引き渡し訓練・シェイクアウト訓練を実施し、全教員が児童の安全への意識を確認したり高めたりするよう努め、職員による組織的な対応もできた。普段の生活でも命を守る行動ができるようにしていく。
⑥特別支援教育	個に応じた指導と支援	児童理解の会を毎月実施する。必要に応じて校内委員会を実施する。SCや特別支援アドバイザー等を活用しながら支援体制を確立し、学校全体で指導と支援の充実を図る。	特別支援 (研・学)	児童理解の会や校内委員会で気になる児童の情報共有を行ってきた。より指導と支援の充実を図るために児童の実態に合わせて援体制を見直し、より適切な支援につなげていく必要がある。	【努力指標】 児童理解の会や校内委員会を通して児童の情報共有・支援方法を検討し、よりよい指導・支援につなげることができたか。	教員の肯定的評価が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	教員アンケート (7・12月)	A	A	校内委員会では、気になる児童に対して具体的な今後に向けての支援策を特別支援アドバイザーを交えて検討した。児童理解の会では、子どもたちの日ごろの様子に加えて各種アンケート結果も踏まえて様々な角度から情報共有を行い支援につなげることができた。
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化・平準化によるワークライフバランスの推進	多岐にわたる業務の優先順位を考え、見直しをもって早めに取りかかり、業務の効率化及び平準化を図る。	教頭 (総)	全職員が定時退校日や目標退勤時刻を意識して超過勤務時間削減に取り組んでいる。今年度から日課を見直し業務改善に努めている。	【成果指標】 計画的・効率的な業務遂行に努めることで、毎月の時間外勤務の平均が60時間を超えなかったか。	超過勤務時間の平均が月に60時間を超えない教職員の割合が A 90％ B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	勤務時間調査 (7・12月)	C	B	定時退校日やマイ定時退校日を設定し全職員が取り組むことができた。また、8～12月の毎月の時間外勤務の平均が60時間を超えない教職員は86.1％であった。今後も業務の平準化に努めていく。
⑧研修	考えを深めるための授業づくり	学んだことをもとに、児童が自分の考えを表現できるよう、様々な方法を指導する。	校内研修 (研・学)	教師はICT活用のスキルは身についてきたが、考えを深めるための有効な活用につながっていない。	【努力指標】 校内研修が授業づくりに役立ったか。	教員の肯定的評価が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	教員アンケート (7・12月)	A	A	今年度は週に1回の職員研修時間を設定したことで、ICTの活用を含め、授業づくりについて何度も話し合うことができた。日頃の疑問などを気軽に話し合う場づくりを今後も続けていきたい。
⑨保護者、地域との連携	開かれた学校	便りや、H.Pを活用し学校の様子を保護者に伝える。保護者アンケートや学校運営協議会により保護者や地域の声を学校運営に生かす。	教頭 (総)	定期的なホームページ更新や、学校だより学級だよりの発行が定着した。コドモンを活用した周知に取り組んでいる。	【満足度指標】 保護者が、学校便りや学級便り、ホームページ等で、学校の様子がよくわかると感じているか。	保護者の肯定的評価が A 95％以上 B 85％以上 C 75％以上 D 75％未満	保護者アンケート (7・12月)	B	B	肯定的回答は91.4％であった。ホームページは行事後に随時更新したり、学校だより等を適宜、配付するようしている。保護者や地域に学校の様子を伝えていく。
⑩教育環境整備	校舎内外の安全と教育効果を高める教育環境の充実	日常的に安全点検・備品管理に努め、施設・設備・備品等の適切な整備を行う。	主事・教頭	定期的に安全点検をし、修繕したり、備品補充したりしてきた。しかし、日常的な修繕が必要な場所や修繕しきれていない箇所がある。	【成果指標】 管理場所の担当者が安全確保と環境整備に努め、常に学習・生活環境が整備されているか。	安全確保・環境整備が整っていると感じた教職員が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	教職員アンケート (7・12月)	A	A	定期的な安全点検によって、危険箇所の早期発見と迅速な対応ができた。今後も全教職員で安全な学習環境作りに努めていく。